

# 第1学年 国語科学習指導案

公開授業Ⅰ 1年1組

公開授業Ⅱ 1年2組

児童 1年1組 計25名  
 1年2組 計23名  
 授業者 1年1組 小原 睦子  
 1年2組 兼平 優子

1. 単元名 「やくめ」と「くふう」がよくわかる のりものカードをつくろう！  
 教材名 「いろいろな ふね」（東京書籍 1年下）
2. 身につけさせたい力と単元を貫く言語活動の構想

## 単元を貫く言語活動

### <児童の実態>

- 段落ごとに、書かれてあることの大体をおさえることができる。
- △文章全体について、書かれてある事柄に沿って順序をおさえながら読む力が不十分である。
- △必要な情報を端的に取り出して、整理することができない。
- △聞かれていることに対して、関係する大事な言葉を文章中からさがして正しくこたえる力が弱い

### <身につけさせたい力>

- ・文章の中の大事な言葉や文章をさがし、書き抜いたり整理したりする力。  
 (読むこと エ)
- ・事柄に順序に気をつけながら内容を読む力。  
 (読むこと イ)

### <言語活動>

「やくめ」と「くふう」を関係づけた「のりものカード」を6年生に紹介するために、船や興味を持った乗り物について書かれている文章や本を読むこと。  
 (言語活動例 イ)

### <既習事項>

- ・簡単な説明文において、問いの文や答えの文をさがし出すこと。
- ・語のまとまりを考えて音読すること。
- ・大事な言葉や文を見つけて、書き抜くこと。

### <これからも指導していきたい力>

- ◇順序を考えながら内容を読み取る力。
- ◇読み取った内容について自分の考えをまとめる力。
- ◇目的に応じて本や文章を選ぶ力。
- ◇主語、述語をとらえて読む力。

### 3. 単元について

#### (1) 言語活動の特徴とつきたい力との関係

本単元での言語活動は、乗り物の「やくめ」とそれに関連した「くふう」（設備や機能）について分かったことを、「のりものカード」にまとめて紹介するために、乗り物についての文章や本を読むことである。

カードを作る際には、一人ひとりに、図鑑や資料から①なまえ②やくめ③あるもの④そのせつめいの4つの要素をさがし出させ、端的に書き抜かせる。第二次や第三次の学習において、文章から必要な情報を取り出し書き抜いてカードを作らせる学習をくり返し行わせることが、大事な言葉をおさえながら読み取りをする力をつけることにつながるものと考えられる。

カードの内容は、グループごとに「せつめいかい」という形で発表させる。記述した項目ごとに役割分担し、カードに取り入れた絵や写真と照らし合わせ、話す内容を指し示しながら説明させる。「やくめ」と「くふう」は関連していることから、「そのために」などの接続詞を補った文章にして話させる。そういった活動によって、項目の種類がより意識化され、さらに関わり合っていることをより確実に押さえさせられると考えた。

また、出来上がった「のりものカード」を6年生に伝えるという相手意識や目的意識を児童に抱かせることによって、より意欲的に学習を進めながら目標を身につけさせることができると考える。

#### (2) 指導にあたって

本単元は、段落ごとに書かれていることや文の種類などの順序に気をつけて読むことをねらいとしている。そのために必要な情報を取り出すことと活用することを学習する。文章の内容の大体を読み取り、大事な言葉や文をさがし出し、書き抜いたり書き換えたり整理したりするという学習である。

第一次の導入では、まず、子どもたちが知っている乗り物について話し合い、「やくめ」や「くふう」が明記された「のりものカード」を作ることに興味を持たせたい。そして、単元での学習の進め方を計画し掲示することで、子どもたちが学習に見通しを持ち、少しでも主体的に向かえるようにする。さらに、身近なところに乗り物について書かれてある図書のコーナーを設け、並行読書の仕方についても指導するようにする。

第二次では、教材文「いろいろなふね」を読み、段落ごとに読み取った内容をカードにまとめたり「せつめいかい」をしたりすることを通して、必要な情報を取り出す力を身につけられるよう、らせん的に学習を仕組んでいく。

初めは、船の種類をとらえ文章構成をつかみながら、それらがどのような順序で書かれているかに気づかせる。その後、それぞれの船について、「やくめ」とそれにあう「くふう」という文の順序を意識させながら大事な言葉を落とさずカードにまとめられるようにする。第三次での「のりものカード」作りが主体的な活動となるよう書き方を明確にし、全体での活動から個への活動へと段階を踏んだ学習を仕組んでいくようにする。また、発表の仕方として、「せつめいかい」という形式で行わせることによって、読み取りを確かなものにさせていきたい。さらに、第三次に円滑につながるために、文型や言葉の種類など表現の仕方にも着目させたり、並行読書で気づいた類似の言葉などを話し合いに取り入れたりしていきたい。

第三次の「のりものカード」作りでは、並行読書や第二次での学習を活かし、主体的に進められるよう、自分が6年生に一番知らせたいお気に入りの乗り物を選び、第二次同様にまとめるようにする。6年生への発表の場では、同じ乗り物を選んだ児童同士でグループをつくり、第二次と同様に「せつめいかい」という形で紹介をさせる。グループ内の役割や話す項目を分担し、分かりやすく丁寧な言葉で話させるなど、相手を意識した活動になるようにさせたい。6年生への「せつめいかい」は、生活科の単元「みんないっしょに」の中で行うようにする。

### 4. 単元の目標と評価規準

- ・乗り物に興味を持ち、進んで本や資料を読み、「乗り物カード」を作ろうとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ・説明の順序に気をつけ、「役目」と「工夫」の関係を考えながら内容の大体を読むことができる。  
(読むこと)
- ・文の中の主語と述語との関係に注意して読むことができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

#### (評価規準)

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・乗り物に興味を持ち、進んで本や資料を読み、「乗り物カード」を作ろうとしている。	・順序に気をつけて読み、書かれている内容を正しく読みとっている。(イ) ・それぞれの乗り物にどんな役目があってどんな工夫をしているかを表す大事な言葉を見つけながら読んでいる。(エ)	・文の中の主語と述語との関係に注意して読んでいる。 (イ(カ))

5. 単元の指導計画（12時間）

次	時	主な学習活動	言語活動に関する留意点	評価規準 (評価方法)
第一次	1 (1組本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り物に乗った経験や知っていることを話し合ったり、乗り物のビデオを観たりして興味・関心をもつ。</li> <li>様々な乗り物の絵を見て、分類しながら、色々な働きをする乗り物があることやそれぞれの作りが違うことについて話し合う。</li> <li>「のりものカード」とはどんなものか知る。</li> <li>学習計画を立て、学習の見直しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り物の絵を見せ、乗り物に興味関心をもたせながら、「やくめ」とそのための「くふう(あるものとその説明)」によって分類できることに気づくことができるようにする。</li> <li>これまでの学習から、「のりものカード」にまとめていくことを決め、この単元の学習への期待感を抱かせる。</li> <li>単元のめあてを立て、大まかに学習の見直しを持つことができるようにする。</li> </ul>	<p><b>【関】</b> 乗り物の「やくめ」「くふう」について興味関心を持ち、6年生に知らせるためのカードを作ることに興味を持とうとしている。 (観察・発言)</p>
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>並行読書の方法について学習する。</li> <li>教材文を通読する。</li> <li>語のまとまりやことばの響きに気をつけて音読する。</li> <li>漢字と語句の学習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「のりものカード」を作るための本の選び方や目次の利用のしかたなど、並行読書で気をつけることを与えておく。</li> <li>語のまとまりや意味の切れ目を意識して音読するようにする。</li> <li>くり返し音読させることで、内容をより理解できるようにする。</li> </ul>	
第二次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落ごとに話題になっているものをつかみ、文の構成の大体をつかむ</li> <li>説明に使われている基本的な文型や順序をおさえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落ごとにどんな事が書かれているか、文章ごとのまとまり(大段落・小段落)にあてはめながら大まかにとらえさせる。</li> <li>中のそれぞれの段落で、「やくめ」「くふう(あるものとその説明)」の文型が類似していることをおさえる。</li> </ul>	<p><b>【読】</b> 段落ごとに書かれているふねの順序に気をつけながら読んでいる。(観察・発言・ワークシート)</p>
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>きやくせんの「やくめ」と「くふう」の関係について読み、カードにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やくめ」や「くふう」について説明したりカードにまとめたりにしながら、「人を運ぶ」ために「客室や食堂がある」ことをおさえる。「やくめ」と「くふう」が関係していることに気づかせる。</li> <li>「やくめ」を言い表す文「～は、～ためのふねです。」や「くふう」を表す文「～には、～があります。」「～は、～します。」をおさえことができるようにする。</li> </ul>	<p><b>【読】</b> 文章の構成上の順序に気をつけながら読み、大事な言葉を書き抜いている。 (観察・発言・カード)</p>
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>フェリーボートの「やくめ」「くふう」の関係について読み、カードにまとめる。</li> <li>並行読書の中から、「やくめ」や「くふう」を表す言葉や類似の文章表現をさがす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人と自動車を運ぶために」「客室や車をとめておくところがある」ことをおさえることができるようにする。</li> <li>前段落と文章構成(文末などのことば)が同じであることに気付かせる。</li> <li>並行読書の中から、類似の表現を探し出す「ことばあつめ」をし、第三次で活かせるようにする。</li> </ul>	
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぎよせんの「やくめ」「くふう」について読み、カードにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「魚をとるために」「機械や網を積んでいる」ことをおさえることができるようにする。</li> <li>基本的な文型についておさえながら、前段落とは少し違っていることに気づかせる。</li> </ul>	
	1 (2組本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>しょうぼうていの「やくめ」「くふう」について読み、カードにまとめる。</li> <li>最後の段落を読み、これまでの4つの段落を振り返ってまとめる。</li> <li>補助教材から、「やくめ」「くふう」をさがす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「火事を消すために」「ポンプやホースが積んである」ことをおさえることができるようにする。</li> <li>最後の段落から、「いろいろな」「それぞれのやくめ」がさす内容を確認する。</li> <li>補助教材を提示し、「やくめ」「くふう」をさがさせ、第三次につなげる。</li> </ul>	
第三次	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の好きな乗り物について、本や資料で調べたことをもとにカードに事柄をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本や図鑑から「やくめ」「くふう」に当たる部分を探させながら、カードにまとめることができるようにする。図鑑や資料は、あらかじめ教師が選定したものとする。</li> </ul>	<p><b>【読】</b> 文章の中の大事な言葉を書き抜いている (観察・カード)</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年生に発表するための、「せつめいかい」の練習をする。練習の様子を見合い、感想やお互いの良さを伝えあう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年生に伝えるために、同じ乗り物同士グループを作り、練習させる。その後カードを見あって、お互いの良さを話し合うことができるようにする。</li> </ul>	<p><b>【関】</b> 乗り物の役目や工夫に興味を持ち、必要な資料を読んだり調べようとしている</p>

**公開授業 I 1年1組 本時**

6. 本時の学習（1時間/12時間）

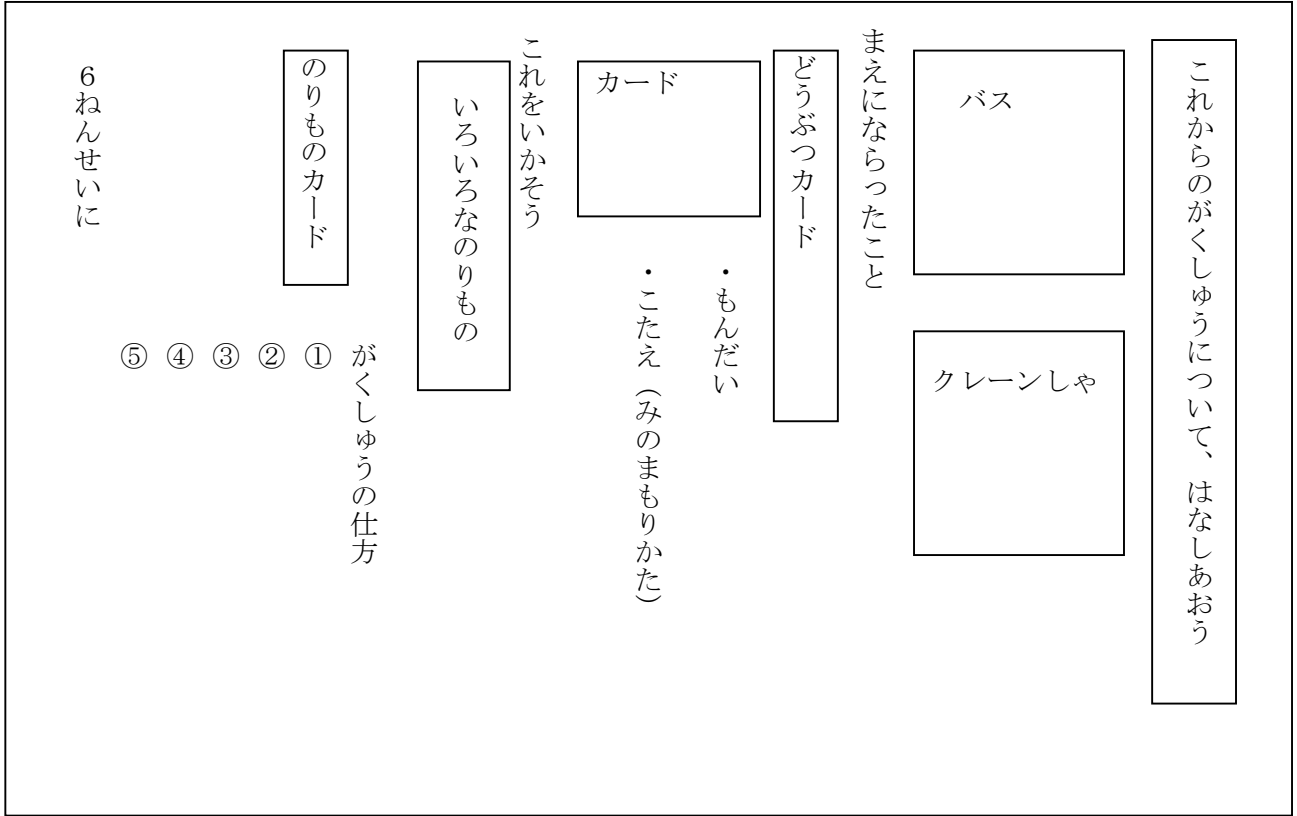
(1) 目標

乗り物カードに関心を持ち、どのようなカードをつくるか考え話し合い、単元の学習の仕方について見通しをもつことができる。

(2) 展開

段階	活動内容	・手立て及び留意点 ◇評価規準
導入	1. 音当てクイズ。 ・新幹線の音と船の汽笛を聞かせる。 ・どんな乗り物を知っているか発表させる 2. 学習課題を知る。 ・今日学習する課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">             これからのがくしゅうについて、はなしあおう。           </div>	・ワークシートに記入させることを通して、どの子ども学習に関心がもてるようにする。 ・本時の課題を一斉音読を通して確かめる。
展開	3. 知っている乗り物について話し合う。 ・知っている乗り物を発表する。 ・乗り物の仲間分けをする。 ・バスについて知っていることを話し合う。 4. ブルドーザーについて話し合う。 ・グループで知っていることを書き出す。 ・グループの発表（ミニプレゼンごっこ）をして良かったグループについて発表してもらおう。 ・初めて分かった乗り物について誰に教えたいか決める。 ・6年生に、お気に入りの乗り物について紹介しよう。 5. カードへの書き方と学習の仕方を話し合う。 ・どうやってまとめるか。 ・どんなことを書くか。 ・学習の仕方を確認する。	・仲間分けの理由を発表させながら、水・陸・空での乗り物分けを行い乗り物の種類について意識づける。 ・バスの乗り物について知っている事柄を<名前><役目><作り（工夫してある事）>に分け、整理できるようにする。 ◇乗り物に興味を持って話し合いに参加し、自分の知っていることを発表している。 ・発表できない子には、提示してある写真を見て気付いたことや、友達の発表から初めて知ったことなど発表させる。 ・身近な乗り物を想起させ、発表できるようにする。 ・ブルドーザーを通して車の名前・役目・作り等を抑えて発表する。（自分たちが知っていることを発表し合う。もっと詳しく知るために本の必要性に導く。） ◇自分たちの班との共通点、違いをとらえるようとしている。 ・他の班の発表を聞いたり、資料を見たり共通点や違いに気付かせる。 ・乗り物についてカードにまとめ紹介するという学習をすることをおさえることができるようにする。 ・既習事項（動物カード）から決める。 ・話し合いの中から乗り物の<名前><役割><作り（工夫してある事）>を書く。 ・これからの学習の流れとして、次の事をおさえて見通しをもてるようにする。 ① 教科書で学ぶ。 ② 文章の組み立てをつかむ。 ③ 教科書の作品を使ってカードを書く。 ④ 自分の好きな乗り物についてカードを書く。 ⑤ 6年生に教えてあげる。
終末	6. 学習のまとめをする。 ・これからの学習の見通しや自分のめあてを書く。 7. 次時の確認をする	◇これからどのような学習をしていくことが分かったか、自分の言葉でまとめようとしている。 ・自力で書けない児童には、今日の学習を板書をもとに振り返らせる。 ・「私は、今日勉強してこれから飛行機の作りと役割について知りたいと思いました。」「私は、これから乗り物のことを学習していくことが分かりました。そのために、乗り物の本を読んでいきたいと思います。」というようなことが書ければよしとおさえる。

7. 板書計画



**公開授業Ⅱ 1年2組 本時**

6. 本時の学習（7時間／12時間）

(1) 目標

しょうぼうていについてカードにまとめることを通して、「やくめ」と「くふう」を関係づけて読むことができる。

(2) 展開

段階	活動内容	・手立て及び留意点 ◇評価規準
導入	1. 前時までの学習を想起する。 2. 本時の学習課題を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ふねの「やくめ」とそのための「くふう」をよみとろう。</div> ・四つ目のふね→しょうぼうてい 3. 学習の見通しを持つ。	・これまでの学習を活用しながら「しょうぼうてい」のりものカードを作ることをおさえる。  ・学習の仕方や進め方を確認し、見通しを持たせる。
展開	4. 「しょうぼうてい」の「やくめ」と「くふう」について読み取る。 (1) 教材文を音読する。 (2) 「やくめ」と「くふう」が分かる部分にサイドラインを引く。 (3) 選んだ部分を基に、グループで「せつめいかい」の練習をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>話し方</p> <p>児童①「このふねの名前は、○○です。」（名前）</p> <p>児童②「役目は、～です。」</p> <p>児童③「そのために、～を積んでいます。」（工夫）</p> <p>児童④「だから、～ができます。」（説明）</p> </div> (4) 自分たちの「せつめいかい」を発表したり、聞き合ったりする。 (5) 「のりものカード」にまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○名前…しょうぼうてい</p> <p>○役目…ふねのかじをけす</p> <p>○工夫（つんであるもの）…ポンプやホース</p> <p>○その説明…かじのときに、水やくすりをかけて火をけす。</p> </div> (6) 全体で、しょうぼうていの「やくめ」や「くふう」について、確かめ合う。 5. まとめの段落を読み、「やくめ」「くふう」について理解をふかめる。 (1) 最終段落を音読し、これまでの4つの段落で出てきた船について振り返り、役目や工夫について内容を読み取る。 (2) 並行読書の中から選んだ共通の補助教材で、役目や工夫をさがす。 (3) 発表し合う。	・前時までの学習を生かし、教材文から自分の力で役目や工夫についてサイドラインを引かせるようにする。「くふう」は、「ふねにつんであるもの」と「そのせつめい」という二文から構成するものとする。 ・せつめいかいでは、一人一役で話す構成を分担することで、「名前」「役目」「積んであるもの」「その説明」の抽出を明確にさせるようにする。 ・2～3つのグループに発表させる。話し方の話型をもとに、適切に言葉を使い、聞き手にもはっきりつたわるように発表できているか、聞き合いをさせる。 ・読み取ったことを、「のりものカード」に書いてまとめさせる。「のりものカード」は第三次で使うものと同様の様式とする。 ・全体で、役目と工夫の関わりについて話し合いながら、板書で整理する。 ◇消防艇の役目と工夫をおさえて読んでいる。 ・まとめ方に困っている子には、友達の発表を思い出させたり、前段落を並べ似ていることに気づかせたりして支援する。  ・まとめの段落から、4種のふねについて振り返らせることで、「役目」とその「工夫」を一般化しておさえさせ、本や図鑑から大事な言葉を取り出す三次での活動につなげたい。 ◇最終段落の内容を、これまで学習した4つのふねに照らし合わせて考え、ふねが役目に合うように工夫された作りになっていることをおさえている。 ・「いろいろ」「それぞれ」の指し示す意味を明確にさせたり、これまで学習したワークシートや学習後の掲示物を振り返ったりするなどして、最終段落の意味をとらえることができるようにする。 ・補助教材を読み聞かせ、役目と工夫に当たる部分をさがさせる。
終末	6. 学習のまとめをする。 7. 次時の学習の確認をする。	・本時で学習したことを、自分の言葉でまとめさせたい。

7. 板書計画

